

75 歳以上医療費窓口負担 2 割化に関するアンケート結果について

2021 年 4 月 20 日
滋賀民主医療機関連合会

現在 75 歳以上の医療費窓口負担は原則 1 割負担「現役並み所得」3 割となっていますが、今回窓口負担 2 割を単身世帯で年収 200 万円以上夫婦世帯で年収 320 万円以上を対象に導入する法案が国会で審議されています。対象は、全国で 370 万人・滋賀県でも政府資料であてはめてみて推計約 4 万人(23%)の方々が負担増となります。今法案が通れば、現役並み所得の 3 割負担の方をあわせると 75 歳以上の方の 3 人に 1 人が 2 割以上の医療費窓口負担となります。国会の答弁では、政府は、今回の 2 割負担の導入で 1880 億円の給付が削減できるとしています。そのうちの受診行動による変化の削減額はどのくらいになるのかという問いに対して「受診行動の変化により減少は 900 億円と試算しているが直ちに患者の健康への影響を意味するものではない」と説明しています。

当会では、この間「75 歳以上医療費窓口負担 2 割化」に反対する運動をおこなってきましたが、今回国会審議において「あまりにも実態が置き去りにされているのではないか」ということを危惧し、今回のアンケートを緊急に実施・発表することとしました。

アンケート結果

滋賀民主医療機関連合会では 2021 年 1 月から 3 月にかけて滋賀県下 4 つの診療所を利用されている医療生協会員さんや健康友の会会員さん並びに通院往診患者さんを対象に「75 歳以上の医療費 2 割負担について」のアンケートを実施しました。今回のアンケートは、今回窓口負担 2 割となる方だけを対象とせず、75 歳で該当されない方や 75 歳以下の方々にも協力いただきました。これは、今回の窓口負担 2 割の対象者とそうでない方でどう違うのかも検証したかったからです。

その結果、910 名の回答をいただきました。(75 歳以上 492 名・75 歳以下 404 名)アンケートの形式は選択式で答えるものと自由記載欄に意見を記述していただく方式をとりました。

(1) 今の医療費の支払いが負担と感じたことがありますか

全体では「負担と感じたことがある」468 名 54%「負担と感じた事は無い」397 名 46%

75 歳以上の方では「負担を感じたことがある」252 名 54%「負担と感じた事は無い」214 名 46%

今回 2 割負担対象となる方で「負担と感じたことがある」91 名 51%「負担と感じたことがない」86 名 49%でした。

全体の傾向と 75 歳以上・今回負担対象となる方それぞれの層で傾向に大きな差はありませんでした。

(2) 医療費が 2 割負担になった場合の負担感について

全世代では「とても負担」384 名 46%「少し負担」288 名 35%で 81%の人が負担を感じています。

また 75 歳以上では「とても負担」227 名 48%「少し負担」160 名 34%で 82%の方が負担を感じています。

さらに今回 2 割負担対象となる方では「とても負担」88 名 49%「少し負担」58 名 33%で 82%の方が負担を感じています。

全体の傾向と 75 歳以上・今回負担対象となる方それぞれの層で傾向に大きな差はありませんでした。

(3)医療費の支払いが苦しいことが理由で受診をためらったり、我慢したことがあるかどうか。
全体では「控えたことがある」118名 15%。
70歳以上で「控えたことがある」101名 20%。
今回2割負担対象となる方で「控えたことがある」31名 17%。
全体の傾向と75歳以上・今回負担対象となる方それぞれの層で傾向に大きな差はありませんでした。

アンケート結果から

(1)今の医療費の支払いが負担だと感じたことがある人たちが年代を問わず半数以上いることから、現状でも全世代に渡って医療費窓口負担は大な負担となっていることが推測できます。75歳以上であっても今回2割負担対象となる方であっても同じように現状の負担が大きいことには相違はありません。現役世代にあっては、窓口負担3割はやはりとてもおおいことがうかがえます。また高齢者においては、年齢が進むにつれて複数の診療科の受診や医療機関にかからざらうえず受診回数も増えるなかで、年収は低下していくため現状の1割負担でも重いものとなっていることが推測されます。「年収に対する窓口負担割合でみると75歳以上は、40～50代の2～6倍近い負担している実態」(兵庫県議会意見書第61号「75歳以上後期高齢者医療の窓口負担2割への引上げの慎重な対応を求める意見書 令和2年12月11日」)

(2)こうしたなかで医療費の支払いが苦しいことが理由で受診をためらったり、我慢したことがあるかたが、今回2割負担対象となる方で17%にのぼりました。現状でさえ経済的理由で受診を控えるかたが5人に一人の割合でおられることとなります。これは、現在1割負担である75歳以上のかたや全体でも同じ傾向であり、特段今回の2割負担対象者だけに限られた傾向ではないことがうかがえます。つまり、今回のアンケートでは、75歳以上以下に関わらず今でさえ全世代に渡って窓口負担が重くのしかかっている状況があり、今回の2割負担対象者の層でとりわけ負担感や支払いの苦しさが軽減されている状況でないことが明らかになりました。

(3)こうしたなか今回2割負担対象となる方は、窓口負担2割になることについて「とても負担」「少し負担」は80%以上となっています。現在半数以上のかたが負担が重いと感じ、その負担の重さから、5人に1人が受診を躊躇したり我慢したりしている状況で「窓口負担を2倍」にすることは、いままでも以上に受診抑制を深刻化させ疾患の重篤化やそのことによる医療費の増大を招くことが予想されます。「直ちに患者の健康への影響を意味するものではない」どころか、なによりも75歳以上の方が必要な医療を経済的理由で中断することや躊躇することは、命に係わる事態を生じかねないということです。特に今回のアンケートをお願いした皆さんは、日ごろ医療機関を利用されている方がたが多く、現在通院されているかたがたも多くいらっしゃいます。まさに今医療を必要とされている方々にこれ以上の負担をかけ、受診を躊躇したりあきらめたりすることを広げることは「直ちに患者の健康への影響」を及ぼすことであることがこのアンケート結果から読み取れます。

(4)厚労省の資料では今回の2割負担導入で、年間8.3万円の医療費が年間11万7千円で3万4千円(配慮措置でも10万9千円+2.6万円)の増となる試算がされています。窓口負担を「2倍」にしても単純に負担額が2倍にならないことを強調しての試算と思われます。また負担を抑えるため3年間の「配慮措置」を設けて入院を含めた負担増を2割負担対象者の4.2%が年5万円から10万

円・27%が3万円から5万円・64.8%が3万円以下になると試算しています。ただ「配慮措置」がなくなる3年後には、19.4%が年5万円超の負担増となるとしています。

しかし、政府がどう試算しようが、現実にはアンケートに答えていただいたみなさんが自身の現在の治療費が「2倍」となることや今以上に負担が重くのしかかることに危惧をいただいております。アンケートの自由記載欄には多くのご意見が寄せられました。いずれも、今回2割負担対象となる方々のご意見です。

○1人分の年金で生活しているため医療費の負担は非常に大きい。

○75歳頃より2回の手術入院をした1割負担で良かったが2割になれば大変な負担になる。高齢者の気持ちに寄り添った医療制度にしてほしい。

○今はありがたい事に入院するほどの病気はないが何時何時体調崩すかもわからない。自分の医療費だけでなく生活の食費や居住の修繕等の負担多いため医療費の負担が2割になると生活していけない。ましてや施設に入るようになればとてもやっつけられない。厚生年金は毎年減額されている

○病院に行くのを少し控えるかもしれない

○年金生活ですので医療費の上がらないことを祈っています

○夫婦とも大きい病気をしています現在薬は欠かせないので2割化反対です

○90歳以上になると長期の入院もあるのでそうなるちょっと負担の大きいと思う

○歳とともに持病が悪化すれば病気が頻繁になりますので何とか1割負担に抑えて欲しい

○多くの持病があるので2割になると困る。また持病の受診はためらえない。

○今は元気ですが80歳を超えていますのでこれから2割負担になると年金生活なので不安です

○現在の1割負担が2倍になるのは辛い。手術の後のフォローや高血圧や歯の定期的治療などが省けないものが毎日続く。

○薬代が高価ですが自己判断で止めることができないので現状で助かっています

○2割負担になると病院に行くことをためらう人が平とします

○今まで大きな病気をしなかったら80歳を過ぎたこれから大病したときの支払いが心配です

○高齢者が健康で暮らしていくためには誰もが必要な時に受診できるように1割負担をぜひ継続していくことが大切である

○年金が少しも上がらず物価に応じて年金も上がるとは嘘だった。高齢になると病名が増えると言われたと答える

○これまで健康に意識して暮らしてきたこともあって大病や怪我もなく過ごしてきたが個人の努力だけでは病や怪我を避けられない年齢になって医療負担の倍増は今後の生活への不安感が非常に大きい

○74歳までは医療費がとても負担で年間10万円近かったですが1割負担になってとても助かっています。アルバイトをしながら生計を立てています。

○年齢が増すごとに医療に必要なお金が増えていきますので将来のことが不安です

○2人で153歳。現在のところは何とか元気です医療費も月2000円に収まっています。これからが大変になってくると思われます。

(5) 今回のアンケートは、今回窓口負担2割となる方だけを対象とせず、75歳で該当されない方や75歳以下の方々にも協力いただきました。アンケートのご意見でも「高齢になれば病気も増え受診機会も多くなります。年金が人間らしい暮らしをするのに十分分と言えないなかで窓口負担の引き上げは命に関わる重大事です。」と意見が寄せられ今回の2割負担の導入は今回対象外の方々も負担増を懸念されていることがうかがえます。今回の2割負担は、そもそも「可能な限り広範囲」を対象とするため当初年収170万円以上とする案も検討されていました。また今後「対象は政令で決め

る)ことができるため、所得制限が引き下げられ「原則 75 歳以上窓口負担 2 割化」となるのではないかという負担増への不安もめぐえません。かつて後期高齢者医療制度導入直後の 2008 年当時首相であった麻生現財務大臣は「現役世代より低い 1 割負担で心配なく医療が受けられる。是非維持したい」と表明し今回検討会議メンバーとしてその発言すら覆していることから今回の 2 割負担導入の対象が、今回の収入基準でとどまる保証はなく今回の負担増について「現役世代の保険料負担の上昇」を持ちだしていることから今後拡大していく事への懸念が否めません。

(6)政府は今回の 2 割負担導入について、「保険財政の困難」と「現役世代の負担の軽減」をあげています。保険財政については、老人医療費に占める国庫負担の割合を後期高齢者医療制度導入時に 45%から 35%に引き下げたことが財政問題の根本にありますので、この国庫負担をもとに戻すことで保険財政を改善させ現役世代の負担も軽減することが可能です。また、今回の 2 割負担で現役世代の負担が 880 億円削減されます。これは、年間一人当たり 800 円月 67 円です。一方公費は 1200 億円の削減が予定をされており、結局は今回の 2 割負担が社会保障費削減ありきで推し進められていることは、この間全日本民医連が数回にわたり表明してきた声明で明らかにしております。

今回のアンケート結果からあらためて今回の 75 歳以上医療費窓口負担の 2 割化は、受療権など基本的人権を侵害し、高齢者の暮らしといのち健康を奪う法案であることが明らかになりました。今後より多くの方々と協力して廃案に向けて運動をすすめる所存です。

今回のアンケートを実施するにあたって同時 75 歳以上医療費負担 2 割化に反対する署名も配布していますが 現在は滋賀民医連に寄せられているものだけで 4311 筆に及び 3 月 1 ヶ月で 500 筆以上の署名が集約されています。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様。大変貴重なご意見を御寄せ頂きありがとうございました。